



地区目標 ロータリーに夢をもって行動しましょう!!

クラブテーマ 想像から行動へ～優しさ溢れる出会い (DEI) のクラブ～

◆点鐘：市村 清勝 会長

◆ロータリーソング：それでこそロータリー

◆司会：遠藤 直樹 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



第2972回例会

令和5年3月13日(月)

会長あいさつ

市村 清勝 会長



地域防災庫というのを会社の中に作らせていただきました。本当は自治体とその地区の人が連携して準備をするものなのですが、なかなか整備されていないんですね。賞味期限の分からない食べ物があったり、使えるかわからないようなコンロがあったりということだったので、地

域の人のために使っていただくということで、会社の中に作らせていただきました。25人分3日間、水、食糧、そしてコンロ、ラジオ、使い捨てトイレ、いろんなものを揃えさせていただいて、災害があった時はうちの3階の大会議室を解放してその方にお泊りいただくということをしていただいています。6畳分くらいのスペースにその品物を置かせていただいて準備をさせていただきました。被災した人の楽しみは食事くらいしかないということだったので、せめておいしいものを食べていただきたいというふうなことで、「ENJOY BOUSA I」というコンセプトに共鳴いたしまして、私のところもやらせていただくことで作らせていただきました。

地域の人から見えるようにということで、「地域防災庫」というふうに道路側に掲げさせていただきました。正面の入口側からは、誰が見てもわかるように文字ではなくイラストですぐわかるように表現をさせていただきました。

食事は、みんなで何十種類か食べたんですね。それでメニューを決めて、それを一つひとつ箱詰めにして、「これはあなたの分ですよ」というふうにお渡しできるように、そんなことを計画させていただきました。

それ以外にもいろいろやらせていただいております。会社の中に社会奉仕委員会というのを作っております。どういうことをやっているかと、まず献血ボランティアを年に2回やらせていただいております。それから地域の清掃ボランティアを、去年は年に3回やらせていただきました。それと、こども食堂への食材提供をさせていただいております。それから先ほどの地域防災庫、去年の8月に作ったのですが、新聞に出させてもらったのは3月9日ということになります。

それから山寺の杉林がもう荒れ放題になっているので、この杉林の整備を秋口の10月にさせていただきました。それからアオモリトドマツの再生ということで、これも現地を視察するというのと、大江町の災害ボランティアにも参加をさせていただきました。木材の廃材活用ということで、現場で出る木材を活用して薪にしようというふうなことをさせてもらっております。実際はこういう現場で出た端材を一つひとつ同じ長さに切ってまとめて、会社の前に置いておき、「無料で差し上げます」と出しているんですね。そうすると、今すごくキャンプ人気でありまして、すぐなくなっちゃいます。知っている人がすぐ、待ち構えていてやってきて持って行くというふうなことをしておりますね。それからこれが山寺森林の整備活動をしているところですけども、こんなふうな形で社員が下草刈りと間伐をしながら活動させていただいております。

ある住職様より「いつも徳を積みなさい」と言われております。徳には2つの徳があると言われております。1つは陽徳、もう1つは陰徳ということです。皆さんに「私はこうやってやっていますよ」というのは陽徳であって、誰にも言わずにただ誰かのためにやっているのを陰徳と言います。住職からは「あなたは陰徳を積みなさい」というふうに何度も言われております。「陰徳あれば陽報あり」という言葉があります。陰徳を積むといいことがあるんだというお話なんですけれども、今日ここで皆さんにお話したので、私の陰徳は全部陽徳になってしまいました。



幹事報告

安部 弘行 幹事

- 明後日執り行われます故千歳貞治郎会員の香典を届けていただきたい方は明日のお昼までに事務局の小関さんにお届けください。
- 4月17日の観桜会であります。今回は3年ぶりに奥様と一緒に迎えたいと思っておりますので、ぜひ奥様のお誘いをお願いしたいと思います。
- Q1訪問後、臨時理事会を行いますので、理事の皆さんは終わり次第、1階入口の休憩室にお集りください。

委員会報告

親睦・家族委員会

観桜会ですが、日程は4月18日火曜日でございます。会長の都合もありまして、月曜日ではなく火曜日ということになります。何卒皆さまの多くのご出席をお待ち申し上げます。

ニコニコ BOX

〈3月13日〉

市村清勝会長／高橋大さんを歓迎して

本日は本当にお忙しい中をわが西ロータリークラブにおいていただき、ありがとうございます。山形市政のど真ん中で活躍されている姿を見て、いつも頼もしく思っております。今後の町づくりに大いに期待しております。ニコニコです。

中山眞一さん／本日の卓話講師、高橋大様には三浦記念賞の際にいろいろとお世話になり、ありがとうございます。

小野木健治さん／職場訪問例会の御礼

職業奉仕委員会の事業に多くの方に参加いただき、ありがとうございます。講師の高橋様には無理なお願ひになりましたが、快くご講義いただき、ありがとうございます。本日のニコニコに感謝！

長谷川浩一郎さん／高校の同級生、高橋大課長をお迎えして山形市役所職員として町づくりに大活躍の同級生、高橋大さん。ますますのご活躍を祈念し、ニコニコします。

中村喜陽さん／高橋大さん

高校の同級生としても、本日卓話していただけることを大変嬉しく思います。本日はありがとうございます。



ゲスト卓話



山形市中心市街地のまちづくりについて

高橋 大さん

〔山形市役所 ブランド推進課 課長〕

それでは、「山形市中心市街地のまちづくりについて」お話をさせていただく前に、山形ブランド推進課とはどういう仕事をしているのかを簡単にご説明させていただければと思います。

山形ブランド推進課は、1つ目が中心市街地の活性化を担当している「街なか・商業グループ」、2つ目が「ブランド戦略グループ」。山形の物産品のPR、横浜高島屋さんでの物産展や伝統工芸品のPR、「はながたベニちゃん」ゆるキャラなどを用いたPR、最近一番ホットな話題としては、ラーメンでのまちおこしというものもこちらで担当させていただいているところでございます。そして最後3つ目が「ふるさと納税グループ」になります。

山形市では平成20年度より「中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成31年には「中心市街地ランドデザイン」を策定しております。この2つの計画の関係性につきましては、ランドデザインでの中心市街地の将来ビジョン、遠い将来、理想を描いているものが「中心市街地のランドデザイン」という形になります。

では最初に「中心市街地活性化基本計画」策定の経緯についてご説明をいたします。国では平成18年に「まちづくり3法」を改正しまして、山形市でも平成20年11月に「第1期中心市街地活性化基本計画」を策定して、内閣府の認定を受けて以降、現在実施している3期計画まで国の支援を得ながら中心市街地の活性化を推進しているところでございます。

では、第1期計画は平成20年11月から平成26年10月の6年間でした。区域は図の赤線で囲まれた127.7ヘクタールになります。1期計画では街なか観光・イベントによる集客を核として居住や商業の振興を図ることとし、主要事業として官民連携により3つの新名所づくりを実施しました。1つ目が七日町拠点（御殿堰、水の町は御殿堰）、2つ目が山形まなび館（今で言うとQ1（キューイチ））、3つ目として、山形まるごと館「紅の蔵」。こちらの3名所を整備いたしました。

そうした第1期計画の状況を踏まえまして、平成26年11月から令和2年10月までの6年間を計画期間とする第2期の計画を策定いたしました。2期計画では1期計画で課題となった回遊性の向上や空き店舗の解消に加え、さらなる観光客の誘客を活性化の基本的な考え方として、記載の4つの戦略を立てまして、七日町大通りと山形駅前地区を主軸としてさまざまな事業を推進しました。主な事業としては、施設整備、それから公園関係の事業などで、すべてで91事業を行ってございます。街なか回遊推進に向けた事業の総合展開、それから商業の振興、観光拠点の創出、情報発信の強化という4本の柱で事業を進めてきたというところでございます。

この計画を実行した結果、2期計画での指標として、歩

行者・自転車通行量、空き店舗率、街なか観光客入込数の3つの目標指標を設定しました。それぞれの達成状況としましては、歩行者・自転車通行量は目標値3万6千人に対し、2万5,374人。空き店舗率は、目標値12.1%まで下げようとしたものに対し、10.2%まで下がりました。街なか観光客入込数については、目標値95万人に対し、40万8,937人となりました。空き店舗率については、リノベーション事業の推進や出店サポートセンターというものを設置したりして、新規出店に係る補助制度などを創設した結果、街なかの出店が促されて目標値を上回れるような状況になりました。

一方で、歩行者・自転車通行量や街なか観光客入込数は進捗に遅れ、未実施となった事業があったこと、また、上市や天童市への大型店の進出、中心市街地の百貨店の閉店、新型コロナウイルス感染症の拡大などさまざまな要因が重なり、未達成という状況になりました。このような状況の分析や来街者調査を踏まえ、山形市では新たに中心市街地グランドデザインを策定し、その後第3期目となる中心市街地活性化基本計画を策定しています。

今進められている第3期計画ですが、計画期間は令和2年11月から令和8年3月までの5年5カ月となっております。区域は山形駅西側に立地している文化施設も有効に活用するため、山形テルサや山形県総合文化芸術館、霞城セントラル、あと駅西の施設も新たに加えた、141ヘクタールに拡大させていただいております。テーマは「人が集い、暮らす、次代へつなぐ街の魅力の創造」です。このテーマのもと、新たな街の魅力創出に向け、歴史・文化資源の魅力向上によるにぎわいづくり、エリアマネジメントによる街の魅力の向上、街なかへの居住推進の3つの基本方針を設定し、88事業を実施しているところです。

第3期計画の目標ですが、3つ設定しています。1つ目がにぎわいの創出、2つ目が新規出店の誘導、3つ目が居住環境の向上です。指標の1つ目の計画を立てた時は2万2,399人の歩行者通行量がございました。ここに何も対策を講じない場合の推計値を出すと、令和7年度には2万123人まで落ち込むという結果となりました。これをなんとか盛り返して多少でもプラスにしようと2万2,575人とすることを目標としています。

2つ目の目標が新規出店数です。平成28年度から令和元年度の4年間の出店数から推計値を算出すると46店、それをだいたい倍増の95店にすることを目標としています。

指標の3つ目が転入者数です。平成26年度から令和元年度までの実績をもとに推計値を算出すると4,321人、それを4,787人とすることを目標としています。令和2年から4年までの転入者数を合計した最新値は2,668人と、今のところは想定を上回る転入者数を記録させていただいているところでございます。

第3期計画に掲載している事業の一覧が、計画を策定して内閣府に認めていただいた時は全部で77事業でしたけれども、千歳館とか大沼とかいろんな事業が加わって、今11事業を追加して88事業というような形になっています。これからも計画の進捗状況を見ながら、必要に応じて事業の内容変更や追加を行なっていきたいと考えています。

続いて中心市街地活性化基本計画の上位計画として位置付けています「山形市中心市街地グランドデザイン」につい

て説明をさせていただきます。山形市では平成21年から約10年間、中心市街地活性化基本計画に基づいて活性化に取り組んできました。ただこの間、インターネット販売の普及や少子高齢化の進展など社会情勢が大きく変化し、中心市街地活性化のためにはそのような変化を踏まえた中長期的な視点を持った将来ビジョンが必要であると考え、平成31年に策定したのがグランドデザインというものになります。

そして令和4年11月22日には、さらなる価値向上に向けたグランドデザインの改訂を行なっています。改訂後のまちづくりのテーマは「歩くほど幸せになるまち」です。このテーマの実現に向け、居住、文化・芸術、健康・医療・福祉・子育て、ビジネス、観光、商業の各分野に共通のコンセプトを定め、一貫性のある取り組みを推進し、各分野の魅力向上を図ることを目指しています。

各分野共通のコンセプトは、五感で感じるコンテンツを消費する身体性、偶発性、希少性の創出や滞在する場としての空間の整備、回遊の仕組みづくりなど7つ設定しております。それぞれの分野を発展させるためにも共通のコンセプトを持たせましょうというのが今回の中心市街地グランドデザインの大きな改訂の考え方になります。

グランドデザインでは、中心市街地の魅力向上を図っていくために、エリアマネジメントという考え方を導入しています。各エリアに誘導するべき機能を示したゾーニングを設定しています。個別の事業では、霞城公園、済生館の整備、旧大沼のエリアの再開発、公共空間の利活用、駅前エリア、旧県民会館は市民会館として整備されようとしていますし、山形銀行さんも今建て替え、千歳館エリアのリノベーションという形でいろんな仕掛けをしようとしています。それから御殿堰を生かしたミニ区画整理も予定しておりますので、クリエイティブセンターQ1などを中心に、有機的につなげながら、歩いて楽しい、歩くほど幸せになるまちづくりを進めていきたいと考えているところです。

グランドデザインや中心市街地活性化基本計画の取り組みのその結果の例として中心市街地ではさまざまなマンションや準学生寮の整備が進んでいます。山形市内全体では人口が少しずつ減っているような状況になっていますが、こちらのエリアの中で限らせて言いますと、令和元年以降は人口が増加をしている地域になります。

それではここからは具体的な事業について説明をさせていただきます。Q1プロジェクトは山形県初の鉄筋コンクリート造3階建ての校舎。国の登録有形文化財にも登録されているこの校舎はリノベーションをして、2017年にユネスコ創造都市ネットワークというものに加盟が認定されています。映画部門・映像部門で認定され、やまがたクリエイティブシティセンターQ1として活用している事業になります。この施設を拠点として山形市の文化、芸術、産業、歴史、伝統など多彩な地域資産を多くの人々が連携し、磨き上げることによって、事業、サービス、商品、人材といった新たな価値を作り上げ、それらを産業振興、観光振興、教育振興に生かしたまちづくりを推進し、創造都市やまがたの発展を目指しているところでございます。オープン「キューイチ」にちなみまして、昨年9月1日、魅力的なテナントや企業、クリエイターが入居し、段階的に活用の幅を広げております。月に1度定期開催され

るマルシェは人気イベントになっております。

続いて、山形市最後の百貨店となりました大沼山形本店、令和2年1月に閉店してしまいました。山形市の外郭団体である都市振興公社が落札し、山形市長がトップとなるチームを立ち上げて利活用の検討を進めていきたいと考えているところです。

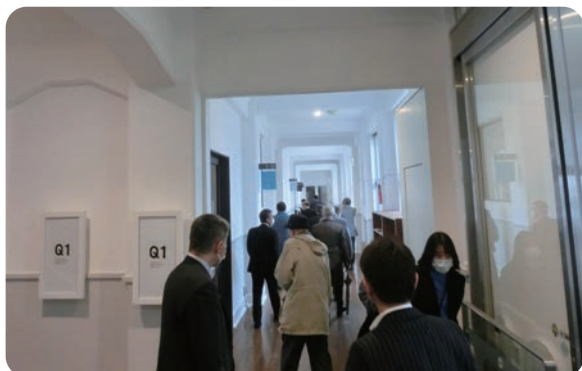
続いて七日町の歴史事業ということで、今、住宅地の中を流れている御殿堰を前面に出して御殿堰の脇をそぞろ歩きできるような形でミニ区画整理していこうという事業でございます。あとは、七日町第6ブロック北御殿堰整備事業につきましては、もう着手されていますけれども、十一屋さんの改築に合わせて脇にある堰も開渠しようという事業でございます。七日町第8ブロック南地区暮らしにぎわい再生事業につきましては、山形銀行さんの建て替え事業

と合わせて、中心市街地活性化に帰するような何か機能を盛り込んでいこうという事業でございます。

こういった事業を推進、助力するために、山形エリアマネジメント協議会を立ち上げて、いろんな戦略の管理、新規出店サポートセンターというものを設置し、街なかに出店したいという方に対して物件を紹介、補助制度の紹介、実際に出店をしていただけるように一緒になって伴走的な支援をしていくというのがエリアマネジメント協議会の今一番大きな役割になっているところです。

こういった事業を通じながら、引き続き関係者の皆さま方とともに中心市街地活性化にわれわれ取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後とも皆さま方からの変わらぬご理解とご協力を賜ればと思います。

職 場 訪 問



本日出席 (3 / 13)	会員総数	出席会員数
	99名	57名